

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域研究コース (多文化共生・多様性コース)		訪問国	カナダ	
学校名	静岡県立藤枝東高等学校	氏名	田中風介	学年	2年

留学の概要

1. 留学地域：カナダ [トロント]
2. 留学期間：2025/7/26～2025/8/16
3. 留学テーマ：カナダの様々な人々と入植者・移民という歴史から「異文化・多人種」について学ぶ。

<目的・応募理由>

近年の静岡県では多様性や多人種共生が義務教育の場でもよく話されているが実際の静岡県では在日外国人や外国人旅行客との問題が多く騒がれていて、外国人の方々とうまく生活できていないと感じたことからそれらを解決することができる本当の多様性を探究したいと思ったから。

そのためには従来の教育や概念で決まりきっている日本ではなく、多様性が元々富んだ場所の文化や風土を知らなければならない。だからこそ多民族国家であるカナダへの留学を決意した。また、多様性を知るためには自分だけの意見ではなくより多くの人に意見を求め、自分自身もより多くのことを知る必要がある。そのためにただの留学ではなく多くの人と繋がれて時に助けに、時に友人になってくれるトビタテ留学に大きな魅力を感じた。



<探究活動>

一つ目に留学中にカナダのスーパー、博物館、美術館を周り、カナダの文化・歴史を多く学んだ。また学んだ知識を日本のものと比べてより違いを明確にした。さらに、生活の中で日本との大きな違いと小さな違いのどちらも探究してその違いが何を意味していて何から生まれたのかを調べた。例えば大きな違いではカナダでは宗教によって住む地域がある程度決まっており自分が住んでいた地域ではユダヤ教の人々が多く、ユダヤ教専用の学校や病院があることであり、小さな違いではス

ーパーには同じような商品でも絶対に宗教やアレルギーに配慮されたものがあることである。さらにいくつかのハプニングを経験した。帰宅中にバス内でコカイン中毒者が隣に座ってきてとても怖かった。しかしコカインはカナダでは合法であり何も悪いことではなかった。しかし周りの人も自分もその人のことをすぐに避けてしまって、何もされてないし、何も悪いことはしていないのにその対応が本当に良かったのか考えるきっかけになった。

二つ目に留学中にホームステイ先・語学学校の友人、先生といった色々な人に多様性とは何かを聞き込みそれぞれの意見を聞き込みしました。また自らの意見も相手に話して評価してもらいました。それぞれの生活や経験から生まれるとても貴重な話を聞くことができた。彼らにとっては日本人の感覚よりも海外の文化が身近にあることが普通であるが日本と大きく違うかというところというわけでもなく日本はただそれに慣れていないだけであって海外でも異文化を拒むことは平然とある。という先生からの話は確かにと共感できる部分が多く、その後の生活では言われているほど日本が多様性に関して遅れをのっているのだろうかという疑問を持ちながら生活するきっかけになり、結果的に自分が考える多様性が本当に世界的に考えられている多様性と同一なものなのかを疑うきっかけになった。

この二つから当初考えていた考察から一変した予想が生まれ、プランにはなかったような場所への見学へ行くことになった。軍事的な歴史の深い場所へは行く気は無かったが当時感じていた違和感を解決するために行くことにした。結果的に探求には繋がらなかったが普通に観光しては一生わからなかっただろうカナダの軍事的歴史を知れ探求からよりじぶんのちしき w

<結論>

カナダで多様性について調べていくにつれ、自らが想定していた多様性像とは真反対の対応や文化が多く見られるようになった。留学前までは私は多様性を個々がグループ化することだと考えていた。それは多様性によって個々が互いに相手を理解し、仲間あるいは友人といった友好関係を築けると考えていたからだ。しかし、ホームステイや語学学校の友達との交流、トラブルへの遭遇などから多様性はグループ化と真逆なことだと感じた。カナダでは自分と違う人を否定をすることも、差別することもない。しかしそれと同時に自分と違うというだけでその人を遠ざけてしまう。それは他者と理解し合いグループ化するのではなく、他者と距離を作り自らが理解できる範囲で人と交流することだった。すなわち本当の多様性とは理解できない人との関わりを避け、両者にとって問題や不満が生まれないように干渉しないということであった。

